

小児科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立こども病院 内科系診療部長 和田尚弘

2017年度より、新専門医制度に従う日本小児科学会の方針により、静岡県内では三つの小児科専門医基幹施設の一つに認定されました。静岡県立こども病院は1977年に全国で6番目のこども病院として設立され、2007年に小児集中治療センター、周産期センター、2008年には児童精神科(こころの診療科)、救急総合診療科が開設されました。静岡県中部の静岡市にあり、静岡県の小児医療の3次医療機関と位置づけられています。

病床数は279床(一般243床、精神36床)、うち44床がICUとしての機能を果たしています(PICU8床、CCU12床、NICU18床、MFICU6床)。最先端の高度医療ですべての小児疾患に対応する「小児総合医療施設」として、各小児内科系専門診療科(アレルギー科、遺伝染色体科、血液腫瘍科、循環器科、神経科、新生児科、腎臓内科、内分泌代謝科、発達小児科)、周産期センター(新生児科、産科)は、それぞれがその分野をリードしております。外科系診療科(小児外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、麻酔科)、もすべて小児専門で、当院でしかできない手術に対して県外からも来院されます。1次から3次までの救急患者を受け入れる体制を有し、小児集中治療科、救急総合診療科においては臓器にとらわれない総合的かつ高度な医療の提供を目指しています。こころの診療部(発達小児科、こころの診療科)も体制が整い、「身体からこころまで」小児に関する総合的診療が可能です。

2 静岡県立こども病院小児科研修プログラムの内容

毎年8名の後期研修医を受け入れ、基幹であるこども病院と関連病院の両方を研修します。こども病院では、研究研修委員会、救急総合診療科を中心にその指導に当たっています。一次救急から三次救急までを経験出来ること、同時に高度な専門診療を学ぶことが、静岡県立こども病院プログラムで研修する最大のメリットです。研修医一人一人の経験や希望に合わせて柔軟性のあるプログラム作成を行い、診療科スタッフがマンツーマンで研修をサポートします。関連病院では、地域医療や救急を担っている特色ある病院と連携して、小児保健(乳児検診や予防接種)、common diseaseなど一般小児科診療、急性期疾患、救急の研修が可能です。プログラムの詳細は静岡県立こども病院ホームページ(shizuoka-pho.jp/kodomo/index.html)採用情報/後期研修医募集から、「小児科専攻医募集」をご参照ください。

3 連携病院(9病院)

静岡県立総合病院
静岡済生会総合病院
静岡赤十字病院
静岡市立静岡病院
静岡市立清水病院
焼津市立総合病院
沼津市立病院
藤枝市立総合病院
市立島田市民病院